

2023年度

総 会 議 案 書

【日時】 2023（令和5）年5月27日（土）

午前10時00分

【場所】 川越市立博物館 視聴覚ホール



かわごえ環境ネット

総 会 次 第

1. 開会
2. 理事長あいさつ
3. 議長選出
4. 議事
 - (1) 議案第1号 2022年度事業報告
 - (2) 議案第2号 2022年度決算報告及び会計監査報告
 - (3) 議案第3号 2023年度事業計画
 - (4) 議案第4号 2023年度予算
5. 議長解任
6. 閉会

2022年度事業報告

1. 主な事業

事業一覧

年 月 日	事業内容
2022年 4月 11日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
12日(火)	池辺公園定例活動
25日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
5月 1日(日)	広報かわごえ環境ネット2022年5・6月号(No.185)発行
1日(日)	春の里山 自然観察&クリーン活動
9日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
10日(火)	池辺公園定例活動
23日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
28日(土)	2022年度総会 川越市立博物館視聴覚ホールにて(出席19名・委任99名:計118名)
6月 5日(日)	川の一斉水質調査
13日(月)	片倉城址観察会
14日(火)	池辺公園定例活動
18日(土)	社寺林の観察会
27日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
7月 1日(金)	広報かわごえ環境ネット2022年7・8月号(No.186)発行
10日(日)	キノコの観察会
11日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
18日(月)	夏の郊外クリーン活動
25日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
30日(土)	虫の観察会
8月 9日(火)	池辺公園定例活動
9月 1日(木)	広報かわごえ環境ネット2022年9・10月号(No.187)発行
12日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
13日(火)	池辺公園定例活動
18日(日)	小畔川魚とり遊び
26日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
10月 2日(日)	アースデイ川越in昭和の街2022出展
9日(日)	川越まつり会場事前クリーン活動
10日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
11日(火)	池辺公園定例活動
24日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
29日(土)	古谷湿地さかな観察会(環境政策課に協力)

11月	1日(火)	広報かわごえ環境ネット2022年11・12月号(No.188)発行
	6日(日)	キタミソウ観察会
	8日(火)	池辺公園定例活動
	14日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
	19日(土)	2022森フェスin川越
	28日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
12月	11日(日)	環境講演会「川越のSDGs～それってほんとにサステナブル?～」
	12日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
	18日(日)	歳末まち美化活動
2023年	1月 1日(日)	広報かわごえ環境ネット2022年1・2月号(No.189)発行
	9日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
	23日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
2月	13日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
	14日(火)	池辺公園定例活動 浅羽ビオトープで野鳥の観察
	25日(土)	第21回かわごえ環境フォーラム
	27日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
3月	1日(水)	広報かわごえ環境ネット2022年3・4月号(No.190)発行
	13日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動
	14日(火)	池辺公園定例活動
	25日(土)	かわごえの植物をたずねて
	27日(月)	(仮称)川越市森林公園計画地 調査・保全活動

【会議】	理事会	11回開催
	広報委員会	12回開催
	社会環境部会	10回開催
	自然環境部会	10回開催
	事業運営委員会	11回開催

2022年度事業報告

2. 総括及び全体事業

2022年度は、2020年度、2021年度と続いた新型コロナウイルス感染症の影響は限定的となり、懇親行事以外の行事をほぼ実施することができました。新規の取組も実施することができ、本会の新たな役割を見出すことができました。一方で、広報委員会や社会環境部会など運営を担うスタッフが少ない状態が続いており、事業継続が課題となっています。

また、本会が推進の役割の一つとなっている「第三次川越市環境基本計画」と「川越市環境行動計画（平成29年2月改定）」の目標年度は令和7年度（2025年度）、国連が採択したSDGs（持続可能な開発目標）の目標年は2030年、日本としてのカーボンニュートラルの達成は2050年となっていることなどをふまえ、本会としても長期ビジョンを再構築しつつ、川越市の望ましい環境像とこれらの計画や目標をどのように結びつけていくかが課題となります。2022年度は、2023年度のこれらの背景をふまえた活動の方向性を検討してまいりました。

以下に、本会の目的である「川越市環境基本計画に基づき、市民、事業者、行政、さらに民間団体がパートナーシップを形成し、それぞれが役割を理解しつつ実行できるよう、協働して行う事業について情報提供や調整を図ることにより、地域ぐるみで本市の望ましい環境像実現のための取り組みを活発にすること」に基づいて、以下に5つの事業について、全体事業を中心とした2022年度の具体的な事業報告を記します。

- (1) 【交流事業】2023年2月25日に「第21回かわごえ環境フォーラム」をウェスタ川越で開催するとともに、午前の部「かわごえ環境活動報告会」をオンライン同時配信しました。報告会では8件の環境活動報告があり、それぞれの活動について情報共有することができました。午後の部は、2019年以来4年ぶりのワークショップを「若者×環境=暮らしに根ざした未来」というテーマで実施しました。ゲスト団体として、若者が中心として活動を行っている日本若者協議会「日本版気候若者会議」、Climate Youth Japan、Fridays For Future Saitamaの3団体を招いてそれぞれの活動などについてプレゼンテーションを行った後に、参加者が6つのグループに分かれて「描いてみよう 暮らしに根ざした川越の未来」というテーマでグループワークを行い、話し合いの結果を報告しあって、川越の未来についてさまざまな世代の意見を共有することができました。参加者は午前、午後合わせて延べ150名ほどとなり、この3年間のブランクを感じさせない熱気を感じるイベントとなりました。

新規事業として、11月19日に（仮称）川越市森林公園計画地において、川越市市制施行100周年提案型補助事業に採択された「2022年森フェス in 川越」を実施しました。「森のスタンプラリー」「木工ワークショップ」「収穫体験&読み聞かせ会」という3つのグループでアクティビティを実施するとともに、これらのグループ活動終了後に合同で「森で歌おう&プチマルシェ」を実施して参加者、スタッフ合わせて167名となる大規模なイベントとなりました。

- (2) 【普及・啓発事業】地域のごみ削減による環境改善と持続可能な開発につながるライフスタイルの普及・啓発に資する「クリーン活動」については、5月1日の「春の里山 自然観察&クリーン活動」、7月18日の「夏の郊外クリーン活動」、10月9日の「川越まつり会場 事前クリーン活動」（2019年までは、川越まつり会場クリーン活動として祭事の期間に実施したが、今回は事前実施に変更）、12月18日の「歳

末まち美化活動」の4回の行事を開催しました。各行事の参加者は44名、47名、31名、69名の延べ人数で計191名となる規模の大きな活動となりました。

10月2日に蓮馨寺で開催された「アースデイ川越 in 昭和の街 2022」に出展し、『森を守る活動を知ろう！「2022 森フェス in 川越」体験～丸太切り&木工』として前述の森フェスのイベントを実施し、小学生を中心とした多数の子どもたちに森を守る活動を体験してもらいました。

本会会員が広報かわごえ環境ネットへの報告記事やコラムを通じて、環境行動に関する普及・啓発を図りました。詳しくは広報委員会の報告をご覧ください。

川越市（環境政策課）が主催する環境月間ポスターコンクールにおいて「環境ネット賞」を小学生の部2点、中学生の部1点選定しました。

- (3) 【調査・研究事業】6月5日の川越市内河川における「川の一斉水質調査」を流域団体の参加団体として実施しました。9名が23地点の採水を行い、10名で水質調査を実施しました。また、専門委員会において環境調査や保全活動を実施するとともに、川越市が主催する「かわごえ生き物調査」に協力しました。さらに、「川越市環境行動計画」の推進のため、川越市と協働して「環境に配慮した行動（チェックシート）」を、大学生と市民に対してインターネットや会場において実施しました。
- (4) 【学習支援事業】専門委員会において環境講演会や勉強会を実施し、会員への研鑽の機会を提供しました。詳しくは各部会の報告をご覧ください。
- (5) 【広報・情報事業】広報紙として「広報かわごえ環境ネット」を2022年5・6月号から2023年3・4月号まで隔月刊で6回発行し、情報の蓄積と共有を図りました。また、Webサイトや「note」での情報発信、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）のFacebook、Twitter、Instagram、YouTubeでの配信などを実施しました。詳しくは広報委員会の報告をご覧ください。

刊行物としては、第21回かわごえ環境フォーラム『かわごえ環境活動報告集』を300部発行し、市民・民間団体・事業者・行政等の環境活動に関する情報を集成しました。今回、初めてフルカラー印刷による発行を行い、これまで以上に魅力ある冊子になるよう努めました。なお、この報告集は電子化を行い、ホームページでダウンロードできるようにしました。また、川越市が発行する『令和4年度版 かわごえの環境（第6号）』の「市民・事業者の環境への取組状況」に、川越市における本会等の協働事業を掲載しました。

3. 広報委員会

2022年1月より8ページフルカラー印刷に体裁を一新した「広報かわごえ環境ネット」を2022年5・6月（No.185）から2023年3・4月号（No.190）まで6号発行しました。なお、5・6月号は発行部数を400部、7・8月号からは500部に増部して、広報機能を拡大させました。

紙版の広報を増部する一方で「会員限定メールサービス」の利用を推進し、情報伝達のデジタル化を進めました。2022年度末の登録者は88名となっており、前年度末より16名増加しました。

また、Webサイトの運営とともにソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）のFacebook、Twitter、Instagram、YouTubeを活用し、本会並びに会員の情報を広く社会

に発信することに努めました。広報かわごえ環境ネットの記事は報告記事を「note」に掲載することで高い検索性を持つことができています。

広報かわごえ環境ネットにおいては、社会環境部会が担当するコラム「社会と環境について思うこと」を第19回から第22回までの4回、「かわごえ環境STYLE」を第8回の1回掲載しました。また、自然環境部会が担当するコラム「自然を訪ねて」は、第3回から第8回までの6回掲載しました。また、「理事長コラム」を第1回として掲載しました。報告記事として本会の活動報告、会員・関係団体の活動の掲載に努めました。

4. 社会環境部会

ネガティブな環境の未来からポジティブな未来へ。気持ちを切り替えて、アクションしていく、そんなことを想いながら2022年は活動をしてきました。未だ落ち着くことのない感染症による社会的パニック、世界的に不安定な情勢、失われていく自然、進行していく地球温暖化などなかなか明るい未来が見えませんが、私たちが暮らすまち「川越」では持続可能な社会に向けて動いている人々がいます。雑木林での落ち葉掃き、生きもの育む田んぼの保全、エネルギー効率の良い暮らし、まちのクリーン活動など、身近な活動の中にこれからの社会をサステナブルにしていこうという人たちがいます。そういった人たちが身近に感じ、自身も活動に参加すると、ネガティブな状況ばかりではないでしょう。

社会環境部会の部会員は高齢化等により減少しており、部会活動も縮小傾向です。しかし、かわごえ環境ネットとしては、新規事業として「2022 森フェス in 川越」を開催するなど新しい動きがあります。部会の体制や活動について見直しの時期にきていると感じています。

① 定例部会の活性化とコラムの充実

定例部会においては、身近な話題からグローバルなトピックまで環境や社会に関するテーマを広く取り上げ、部会員同士の議論の活性化と社会的課題に対する相互理解に努めました。また、部会員の高齢化や減少といった組織内の課題に向き合っていくため、体制や部会運営についての意見交換を進めてきました。

コラム「社会と環境について思うこと」では、2022年は4件のコラムを投稿し、コラム「かわごえ環境STYLE」では1件のコラムを投稿し、身近な自然の大切や森づくり、川越の歴史文化、脱炭素社会などに関するテーマを取り上げ、部会メンバーで協力して環境問題に関する意識啓発を行いました。

② 学習活動

12月11日に環境講演会2022「川越のSDGs～それってほんとにサステナブル?～」を開催し、会場には27名の参加者がありました。また、オンラインによる同時配信も行いました。講演会では、川越在住のノンフィクションライター／環境ジャーナリストの高橋真樹さんをお招きし、SDGsのこと、気候変動やコロナに私たちはどう向き合うべきか、ゴミ問題や省エネの暮らしなどについての説明がありました。

2022年の事業計画で予定していた以下の項目については、部会長は育児で忙しく、また部会員も高齢化のため、実行できませんでした。

- ・SDGsの普及・啓発
- ・社会環境に関する調査
- ・他の環境関連団体との連携強化
- ・脱炭素社会に関する冊子の作成

5. 自然環境部会

2020年1月に始まったコロナ禍も次第に下降気味になり2022年度は「まん延防止等重点措置」は出ませんでしたので、一般の方を対象としたイベントは、感染対策を講じたうえで実施しました。市と共催の観察会も同様に実施できました。調査・保全活動に関しては、野外で行うもので「密」な状態にはならないので、ほぼ計画通り実施できました。

(1) 行政とのパートナーシップについて

川越市の生き物調査が2017年から始まり、データ提供などの協力。7月30日(土)の市と共催の講座「虫の観察会」は実施、9月24日(土)の「生き物観察会」は台風のため中止。10月29日(土)の市主催「古谷湿地さかな観察会」に協力。3月25日(土)の講座「かわごえの生き物をたずねて」は雨天でしたので、室内で牧野彰吾氏の講義など。

(2) 調査活動について

「(仮称)川越市森林公園」計画地・池辺公園では毎月定例での動植物調査。市内の定点調査として寺尾調節池・新河岸川河川敷・川越水上公園・安比奈親水公園・仙波河岸史跡公園などの生き物調査。新たに絶滅危惧種も確認されました。2022年度は昆虫データの集積をめざし精力的に網を振りました。

(3) 保全再生活動について

「(仮称)川越市森林公園」計画地・池辺公園では在来種や絶滅危惧種などの保全再生活動を毎月定例で実施しました。また団体会員である「川越フォレストクラブ」は動力経験者が多く、自然環境部会メンバーと協力して保全作業にあたり、効率的に手入れができました。

(4) 自然観察会

一般市民に川越の自然を楽しみながら知ってもらうために、「(仮称)川越市森林公園」計画地で「キノコの観察会」、喜多院・中院で「社寺林の観察会」を実施。「キタミソウ観察会」を埼玉県生態系保護協会川越・坂戸・鶴ヶ島支部と共催で実施。市主催の「古谷湿地さかな観察会」に協力。

(5) イベント

9月18日(土)に「小畔川魚とり遊び」を実施。雨模様でしたが、合間を縫って楽しむことができました。

「2022 森フェス in 川越」は自然環境部会も全面協力。これまでにない盛り上がりでした。

(6) 学校教育支援

自然環境教育の一環として例年、数校の小学校の自然学習支援を行っていましたが、コロナ禍で途絶えました。

(7) 法令勉強会

絶滅危惧種の選定基準など、牧野彰吾氏を講師に研修会。

2022年度 自然環境部会活動実績

表中【定】池辺 は池辺公園定例活動 毎月第2火曜日

【定】川森 は「(仮称)川越市森林公園」計画地 定例活動 第2、第4月曜日

年	月	実施項目	備考	
2022年	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【定】池辺 植物調査 4/12 (火) 植物調査 11名参加 ・ 【定】川森 植物調査 4/11 (月) 参加者17名、4/25(月) 参加者19名 ・ 生き物調査 寺尾調節池4/20(水) 		
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【定】池辺 植物調査 5/10 (火) 9名 ・ 【定】川森 植物調査 5/9 (月) 19名、5/23 (月) 21名 ・ 「春の里山 自然観察&クリーン活動」 5/1 (日) 参加者・スタッフ計44名 ・ 生き物調査 水上公園5/17(火) 	一般対象	
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【定】池辺 保全活動 6/14 (火) 8名 ・ 【定】川森 片倉城址観察会6/13 (月) 12名、植物調査6/27 (月) 17名 ・ 「社寺林の観察会」喜多院・中院6/18(土) 参加者・スタッフ計20名 ・ 生き物調査 鯨井・小畔川土手周辺6/22(水)参加者9名 ・ 川の水質一斉調査 6/5 (日) ・ 生き物調査研修会 6/23(木)ウェスタ川越 講師：牧野彰吾氏 参加者13名 	一般対象	
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【定】池辺 植物調査 7/12 (火) 雨中止 ・ 【定】川森 植物調査 7/11 (月) 21名、7/25(月) 14名 ・ 「キノコの観察会」7/10(日) 川森 参加者23名 ・ 生き物調査 安比奈親水公園7/27(水) 参加者9名 ・ 「虫の観察会」「(仮称)川越市森林公園」計画地 7/30(土)参加者30名 	一般対象 一般対象	
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【定】池辺 植物調査 8/9 (火) 4名 キツネノカミソリ332開花 ・ 生き物調査 仙波河岸史跡公園8/29(月)10名 		
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【定】池辺 保全活動 9/13 (火) 7名 ・ 生き物調査 9/6(月) 寺尾調節池 10名 ・ 【定】川森 植物調査 9/12 (月) 25名、9/26 (月) 20名 ・ 小畔川魚とり遊び 9/18(日) 参加者19名、スタッフ7名 ・ 川越水土公園生き物観察会 9/24(土) 市主催協力 台風により中止 ・ 生き物調査 9/16(金) 水上公園 10名 	一般対象 一般対象	
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【定】池辺 植物調査 10/11 (火) 10名 ・ 【定】川森 植物調査 10/10 (月) 17名、10/24 (月) 9名 ・ 生き物調査 10/20(木) 寺尾調節池 10名 ・ 古谷湿地魚観察会 10/29(土) 参加者6名 市に協力 	一般対象	
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【定】池辺 保全活動 11/8(火) 9名 ・ 【定】川森 植物調査 11/14 (月) 20名、11/28 (月) 17名 ・ 「キタミソウ観察会」11/7(日) 伊佐沼 39名 生態系支部と共催 ・ 「森フェスin川越」 11/19(土) 自然環境部会よりスタッフ21名 	一般対象 一般対象	
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【定】池辺 保全活動 12/13 (火) 雨中止 ・ 【定】川森 植物調査 12/12 (月) 20名 		
	2023年	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【定】池辺 保全活動 1/10(火) 休止 ・ 【定】川森 保全活動 1/9 (月) 19名 1/23(月) 17名 	
		2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【定】池辺 浅羽ピオトープで野鳥の観察 2/14 (火) 9名 ・ 【定】川森 植物調査 2/13 (月) 12名、2/27(月) 19名 ・ かわごえ環境フォーラム 2/25(土) 	一般対象
		3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【定】池辺 保全活動 3/14 (火) 8名 アズマイチゲ開花数272 ・ 【定】川森 植物調査 3/13 (月) 13名、3/27 (月) 18名 ・ 生き物調査研修会 3/17(金)ウェスタ川越 講師：牧野彰吾氏 参加者10名 ・ 「かわごえの生き物をたずねて」3/25(土)「(仮称)川越市森林公園」計画地 講師：牧野彰吾氏 	一般対象

議案第2号 2022年度決算報告及び会計監査報告

収入

単位:円

項	目	予算額	収入済額	差引	説明
会費		241,000	220,000	△ 21,000	
	年会費	241,000	220,000	△ 21,000	個人:1,000円×124人 民間団体等:2,000円×45団体(合計:169) 過年度分:6,000円
負担金		66,000	22,900	△ 43,100	
	参加者負担金	66,000	22,900	△ 43,100	自然観察会、森フェスin川越参加者負担金
補助金		560,000	560,000	0	
	川越市補助金	560,000	560,000	0	川越市補助金、市制施行100周年記念提案型補助事業
協賛金		100,000	100,000	0	
	協賛金	100,000	100,000	0	協賛金 25,000円×4者 (㈱環境総合研究所、バイオニア㈱、初雁興業㈱、武州ガス㈱)
繰越金		89,480	89,480	0	
	繰越金	89,480	89,480	0	2021年度より繰越
諸収入		21,002	113,842	92,840	
	預金利子	2	2	0	
	雑入	21,000	113,840	92,840	冊子売上110,840円(新訂版「川越の自然」売上700円×153冊、編集委員買取500円×7冊、郵送費240円) 3,000円(「川越の自然を訪ねて きのご編」500円×6冊)
助成金		0	0	0	
	助成金	0	0	0	
合計		1,077,482	1,106,222	28,740	

支出

項	目	予算額	支出済額	差引	説明
事業費		984,000	853,289	130,711	
	報償費	228,000	221,897	6,103	講師謝金 他
	旅費	18,000	3,000	15,000	かわごえ環境フォーラム事前打ち合わせ交通費
	需用費	427,000	413,000	14,000	かわごえ環境活動報告集117,350円、森フェスin川越消耗品費等113,092円 封筒代36,300円、広報紙作成費70,404円、まち美化活動消耗品費等6,199円 消耗品費・印刷製本費 他
	役務費	145,000	125,742	19,258	広報かわごえ環境ネット送料102,964円、森フェスin川越保険料13,160円 他
	使用料及び賃借料	166,000	89,650	76,350	かわごえ環境フォーラム23,100円、環境講演会7,300円、森フェスin川越 会場使用料51,700円 他
	備品購入費	0	0	0	
事務費		32,000	20,393	11,607	
	旅費	2,000	0	2,000	
	需用費	1,000	0	1,000	
	役務費	20,000	14,530	5,470	はがき代
	負担金	9,000	5,863	3,137	加盟団体年会費
予備費		61,482	0	61,482	
	予備費	61,482	0	61,482	
合計		1,077,482	873,682	203,800	

(収入済額) 1,106,222円 - (支出済額) 873,682円 = 232,540円 (2023年度へ繰越)

上記のとおり決算報告いたします。

かわごえ環境ネット
理事長 小瀬 博之

会計監査報告

2023年4月14日に2022年度かわごえ環境ネットの会計監査を実施したところ、適正に執行されていたので、ここに報告いたします。

2023年4月14日

かわごえ環境ネット
監事 宮崎 誠

監事 松岡 壽賀子

2023年度事業計画(案)

1. 2023年度の基本方針及び全体事業

2023年度は約3年間にわたる「コロナ禍」から脱出し、非常時から通常時の活動へ戻すとともに、これまで途絶えてきた交流事業や新たな人材の獲得に向けての活動を進めていく必要があります。

また、本会の設置根拠となっている「第三次川越市環境基本計画」と「川越市環境行動計画(平成29年2月改定)」の目標年度が2年後の令和7年度(2025年度)に迫っており、これまで掲げてきた環境像のイメージやそれにつながる具体的な活動を見直す時期に差し掛かっています。さらに2030年度目標としたSDGs(持続可能な開発目標)への対応、川越市長が令和3年(2021年)5月1日に2050年脱炭素社会の実現を表明した「小江戸かわごえ脱炭素宣言」への対応など、グローバルで長期的な目標に対して現在の生活の見直しや身近な環境への反映を図っていく必要があります。

2023年2月に開催された第21回かわごえ環境フォーラムでは、ワークショップ「若者×環境=暮らしに根ざした未来」を開催し、グループワーク「描いてみよう 暮らしに根ざした川越の未来」を通じて多様な世代の参加者の意見を共有することができました。これらをベースとして「暮らしに根ざした川越の未来」を考え、実行に移していく1年にしていきたいと考えています。

以下に、本会の目的である「川越市環境基本計画に基づき、市民、事業者、行政、さらに民間団体がパートナーシップを形成し、それぞれが役割を理解しつつ実行できるよう、協働して行う事業について情報提供や調整を図ることにより、地域ぐるみで本市の望ましい環境像実現のための取り組みを活発にすること」に基づき、次の5つの事業について、全体事業を中心とした2023年度の具体的な事業を記します。

- (1) 【交流事業】2023年11月中旬に(仮称)川越市森林公園計画地を会場として「2023森フェス in 川越」を開催します。新規事業として開催された「2022森フェス in 川越」をベースとして、川越市において貴重な自然環境を知ってもらい、その大切さを体感できるイベントを企画、実施します。また、2024年2月下旬に「第22回かわごえ環境フォーラム」をウエスタ川越で開催します。川越市における、また川越市民を中心とした環境活動について、報告集と報告会を通じて情報共有するとともに、参加者の話し合いの場を作り、川越市の望ましい環境像の実現に向けた情報交流をさらに進めてまいります。さらに、今年度は「交流会」(懇親会)を復活させて、かわごえの環境をよくしようと活動する会員の懇親を深める機会を設けます。
- (2) 【普及・啓発事業】地域のごみ削減による環境改善と持続可能な開発につながるライフスタイルの普及に資する「クリーン活動」については、主管を事業運営委員会から社会環境部会に移行させた上で4月29日の「春の里山 自然観察&クリーン活動」、7月17日の「夏の郊外クリーン活動」、10月7日の「秋のクリーン活動」、12月24日の川越中心市街地における「歳末まち美化活動」の計4回実施します。また、10月1日開催の「アースデイ川越 in 昭和の街2023」をはじめ、川越市内外で行われる環境活動の普及・啓発イベントへ出展・参加を検討します。川越市(環境

政策課)が主催する環境月間ポスターコンクールにおいて「環境ネット賞」を選定します。各専門委員会において講演会や勉強会を開催し、関心の高い環境問題に対する意識向上や啓発を図ります。その他、広報かわごえ環境ネットのコラムや報告記事を通じて環境行動の普及・啓発を図ります。また、新規事業として、霞ヶ関北地区における地域住民への「環境対話カフェ」を実施して、市民レベルでの脱炭素社会に向けた生活行動や地域に対する環境行動の浸透を図ってまいります。

- (3) 【調査・研究事業】6月4日の川越市内河川における「川の一斉水質調査」を流域団体の参加団体として実施するとともに、流域団体のその他の環境活動に協力します。また、専門委員会において自主的な調査・研究・保全活動を実施するとともに、「かわごえ生き物調査」など、川越市が実施する環境調査に協力します。さらに、「川越市環境行動計画」の推進のため、「環境に配慮した行動(チェックシート)」を、行事の来場者や会員・大学生に対して実施します。次期の「川越市環境基本計画」や「川越市環境行動計画」に向けて、現行の計画の総括とともに、関連する地球温暖化対策、生物多様性戦略、脱炭素社会の実現も考慮した見直しを進めるための勉強会を7月以降から開催します。
- (4) 【学習支援事業】学校の環境学習支援については、要請があった場合に対応し、児童・生徒の体験的な環境学習を支援します。
- (5) 【広報・情報事業】本会の広報紙として「広報かわごえ環境ネット」を隔月刊(5・7・9・11・1・3月発行)で年6回発行し、情報の蓄積と共有を図ります。また、「会員限定メールサービス」の利用者を引き続き拡大させます。また、Webサイト及び各種Webサービスの活用により、情報のデジタル化と会員内外への迅速な情報伝達を行います。2021年2月に発行した設立20周年記念出版「新訂版 川越の自然」の頒布を引き続き進め、川越の自然環境の豊かさや貴重さを広く伝えます。また、第22回かわごえ環境フォーラム『かわごえ環境活動報告集』を発行し、川越市民や団体の環境活動の情報集成を図ります。さらに、川越市が発行する『令和5年度版 かわごえの環境(第7号)』の「市民・事業者の環境への取組状況」に、前年度の川越市環境行動計画の「環境に配慮した行動(チェックシート)」の集計結果及び川越市における本会等の協働事業を掲載します。

2. 広報委員会

広報紙「広報かわごえ環境ネット」を2022年1月に創刊し、隔月刊で2022年度までに8号発行してまいりました。2023年度は引き続きA4サイズ、8ページ、フルカラー、商業印刷による鮮明な紙面を作成し、2023年5・6月号(No.191)から2024年3・4月号(No.196)までを発行してまいります。メディアプラットフォーム「note」を用いた広報紙の記事掲載も進め、検索性の向上を図ります。また、記事やイベントの伝達のために、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)のTwitter, Facebook, Instagramも活用し、広範な読者、参加者を得るとともに会員の拡大を図ります。コロナ禍において実施してきた講演会等のオンラインライブ配信と録画配信は、会場での情報共有とオンラインでの情報蓄積や視聴者の拡大の両面から実施の有無をその都度検討して、必要に応じて実施してまいります。

3. 社会環境部会

新型コロナウイルスの世界的な蔓延や 2022 年 2 月に始まったウクライナ危機は、社会環境部会の関心事でもある環境や資源、エネルギー分野にも広く影響を及ぼしています。それと共に、私たちの生活スタイルを今一度見直し、自然にも人にもやさしいサステナブルな社会をどのように作りあげていくのかを思考し、実践していく契機にあります。このような大きな転換期の中で、川越の環境をよりよい方向に向けてイニシアチブをとっていく市民団体としてグローバルな事象をローカルな現実落とし込み、市民間のつながりを結びなおし、可能な限りのアクションを試みていきます。

①定例部会の活性化とコラムの充実

社会環境部会の部会員の高齢化や減少といった課題に対処していくため、改めて組織内の目標や方向性も含めた部会の在り方について議論を交わしていきます。

広報紙の社会環境部会担当コラムに関してはテーマ「社会と環境について思うこと」を継続し、各部会員が抱く問題意識や地域課題などについて発信していきます。

②クリーン活動

これまで全体事業に位置付けられていたクリーン活動について、今年度は社会環境部会の主管として従来通り年 4 回の実施を予定しています。

③学習活動

環境講演会については、今年度も開催を予定しています。テーマについては検討中ですが、市民が身近な自然とつながるきっかけになることや環境問題への意識啓発などを予定しています。

④地域環境対話活動

新規事業として、霞ヶ関^北地区を対象に地区内の住民の環境問題への関心を向上し、地域課題の解決に向けたアクションをしていくための対話活動を予定しています。

⑤全体事業への協力

「川の一斉水質調査」や昨年実施し継続を検討中の「森フェス in 川越」などかわごえ環境ネットの全体事業にも積極的に協力していきます。

4. 自然環境部会

川越には深い森はありませんが、昔ながらの雑木林があります。春の晴れた日に出かけると、樹冠はヤマザクラの花、落葉樹の新芽で埋め尽くされ、新しい命が輝いています。さらに、夏になると完全に緑に覆われギャップがなくなります。このようにして、植物は世代交代しながら地球環境を守ってきたのです。今、地球規模で災害が多発し、それは明らかに気候変動によるもので、2015 年に国連で合意した SDGs は世界が協力して 2030 年までに解決することを目指しています。国連生物多様性条約第 15 回締約国会議

(COP15) が 2022 年末に開催され、2030 年までに地球上の陸域、海洋・沿岸域、内陸水域の 30%を保護するという画期的な合意とともに閉幕しました。(30 by 30)

自然環境部会のテーマは、「生物多様性の向上 ～川越の生きものを知ろう、ふれよう、親しもう～」です。川越に残る良好な自然環境の調査と記録、そして保全・再生への取り組みです。2017 年度から市が「かわごえ生き物調査」を実施しており、自然環境部会が協力し、それに伴う観察会は共催で行っています。市民生き物調査から提供された

データは川越の自然の実態把握に資することになります。そこから新たな保全策が生まれると期待しています。人も生き物も自然に依拠しており、生物多様性保全は気候変動と深く関わっています。

(1) 行政とのパートナーシップ

市の行う「かわごえ生き物調査」に協力。調査データの提供とともに生き物観察会を共催。調査結果を分析し、川越なりの希少種について検討の予定。また、次期環境基本計画・緑の基本計画についての提言の予定。

(2) 調査・保全再生活動

定例で行っているのは「(仮称)川越市森林公園」計画地、池辺公園。調査を定点的に行っているのは寺尾調節池周辺、川越水上公園、伊佐沼周辺など。今年度はさらに調査範囲や視点を変え、小畔川流域、入間川流域なども取り組む予定。また、「川越フォレストクラブ」との協働で生態的な手入れが効率的にできるようになりました。ナラ枯れ被害が見られる雑木林への調査・対策を継続して行います。

(3) 自然観察会

今年度は市、他団体との共催も含めて「社寺林の観察会」、「キノコの観察会」、「虫の観察会」、「川越水上公園生き物観察会」、「キタミソウ観察会」を予定。

(4) イベント

「小畔川の自然を考える会」と共催の「小畔川魚とり遊び」、NPO法人「かわごえ里山イニシアチブ」と共催の「田んぼの生き物調査」を実施予定。また、全体行事の「森フェス in 川越」にも協力します。

自然環境部会 2023年度事業計画

生物多様性保全の向上

～川越の生き物を知ろう、ふれよう、親しもう～

項目	実施内容	実施場所・時期
1. 行政とのパートナーシップ	川越市の「かわごえ生き物調査」や関連イベント協力	イベント予定（昨年までの例） ・8月上旬 川森「虫の観察会」 ・9月 川越水上公園「生き物の観察会」 ・3月 川森「生き物の観察会」
2. 調査・保全活動	① 雑木林などの調査・保全 ② ナラ枯れ対応（調査・行政への提言など） ③ 生き物調査（講師を招いての調査も） ④ 勉強会 6月頃 調査から見える課題	・「（仮称）川越市森林公園」計画地 毎月第2、4月曜日 ・池辺公園 毎月第2火曜日 ・「（仮称）川越市森林公園」計画地他 ・特徴ある環境での調査（10か所くらい） （安比奈親水公園、小畔川流域、入間川流域など）
3. 自然観察会	① 「社寺林の観察会」 ② 「キノコの観察会」 ③ 「虫の観察会」 ④ キタミソウ観察会	・喜多院、中院 6月17日（土） ・「（仮称）川越市森林公園」計画地 7月9日（日） ・「（仮称）川越市森林公園」計画地 8月上旬（土日）市と共催 ・11月5日（日）伊佐沼 生態系保護協会 川越・坂戸・鶴ヶ島支部と共催
4. イベント	① 田んぼの生きもの調査 ② 小畔川魚とり遊び	・7月1日（土）「かわごえ里山イニシアチブ」と共催 ・9月上旬 小畔川かほく運動公園前親水ゾーンにて 「小畔川の自然を考える会」と共催
5. 学校教育支援	要請があれば対応	
6. 法令勉強会	次期環境基本計画・緑の基本計画への提案、提言のために	新たな生物多様性保全のあり方、川越版レッドデータブックの検討
7. 全体活動	① 「春の里山 自然観察&クリーン活動」 ② 川の一斉水質検査 ③ 「森フェスin川越」 ④ 第22回かわごえ環境フォーラム	・「（仮称）川越市森林公園」計画地 4月29日（土） 6月4日（日） 「（仮称）川越市森林公園」計画地 未定
8. 情報発信	広報紙、ホームページを中心に	

議案第4号 2023年度予算

2023年度予算(案)

1 収入

(単位：円)

項	目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較増減	備 考
会費		247,000	241,000	6,000	
	年会費	247,000	241,000	6,000	(個人1,000円×145人、団体2,000円×51団体)
負担金		16,000	66,000	△ 50,000	
	参加者 負担金	16,000	66,000	△ 50,000	自然観察会、森フェスin川越
補助金		360,000	560,000	△ 200,000	
	川越市 補助金	360,000	560,000	△ 200,000	川越市からの補助金
協賛金		100,000	100,000	0	
	協賛金	100,000	100,000	0	かわごえ環境フォーラム協賛金(4者)
繰越金		232,540	89,480	143,060	
	前年度 繰越金	232,540	89,480	143,060	前年度繰越金
諸収入		35,002	21,002	14,000	
	預金利子	2	2	0	預金利子
	雑入	35,000	21,000	14,000	川越の自然(新訂版)頒布700円×50冊
助成金		0	0	0	
	助成金	0	0	0	
合 計		990,542	1,077,482	△ 86,940	

2 支出

項	目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較増減	備 考
事業費		866,000	984,000	△ 118,000	全体355,000円、広報235,000円 社会環境110,000円、自然環境166,000円
	報償費	216,000	228,000	△ 12,000	講師謝金
	旅費	3,000	18,000	△ 15,000	環境講演会講師打合せ
	需用費	410,000	427,000	△ 17,000	環境活動報告集・消耗品・印刷製本費等
	役務費	140,000	145,000	△ 5,000	広報紙送料、保険料等
	使用料及び 賃借料	97,000	166,000	△ 69,000	会場使用料
	備品購入費	0	0	0	
事務費		32,000	32,000	0	
	旅費	2,000	2,000	0	加盟団体総会参加
	需用費	1,000	1,000	0	文房具等
	役務費	20,000	20,000	0	総会議案書送料、総会返信はがき等
	負担金	9,000	9,000	0	加盟団体年会費(環境ネットワーク埼玉ほか)
予備費		92,542	61,482	31,060	
	予備費	92,542	61,482	31,060	
合 計		990,542	1,077,482	△ 86,940	



【事務局】

川越市環境部環境政策課

所在地 〒350-8601 川越市元町 1-3-1

電話 049-224-5866

F A X 049-225-9800